



大学
University

不思議な クリスマス

経営学部4年 安田 裕

新約聖書の中にこのような言葉があります。「『昇った』というのですから、低い所、地上に降りておられたのではないのでしょうか」(エフェソ4:9)。

これはイエス・キリストが神でありながら同時に人間でもあるということを説明する言葉だと思います。キリスト教の不思議さの根源にあるのは、イエス・キリストが一体何者なのかということであるとずっと感じてきました。よく考えればクリスマスというのはイエス・キリストの誕生を祝う行事なので、実際にイエス・キリストが自分と同じようにこの世界にいたのだということはわかっていたはずですが、キリスト教に関心がなかった頃はイエス・キリストは単に神であるという認識しか持っていませんでした。神が地上に降りて、人間と同じように食べたり寝たりする姿を想像すると、とても面白いなと感じます。クリスマスは、そのようなイエス・キリストの不思議さをあらためて覚えるとても大切な行事だなと考えています。

コロナ禍で過ごす今の心境

地球社会共生学部教授 岩田 伸人

今年の3月までは朝4時に起きる事など、まず無かったのが、今はリモート講義の準備がない毎週末、早朝4時には起きて近くの公園を軽くウォーキングなどして、4時半から原稿を書いたり研究資料を読み込んだりするスタイルに変わりました。ただそれは外面的な日常生活パターンの変化であって、心の中の変化はこれとは別です。

コロナ前は、研究者仲間と会って議論したり、学生と実際に会ったことから自分が受けた刺激が原因となって、じゃあこれを調べようとか、明日はこれを話そうといったように、他者と自分の因果関係がありました。ところがコロナ以降は、そのような他者との刺激的な関わりが薄れています。その代わりに、まず自分で考えたことや疑問に思ったことが原因となって、じゃあ今日はこれを読もうとか、これを原稿にしようとか、要するに思考パターンが自己完結型になることが増えました。

さて今朝は、大学教員33年間に思いを巡らして、自分が初心に決めたことを未だやり遂げていないこと、それにはあと数年間かかることに少しの後悔と希望を見出したところです。そう言えば、自分は昔から、現実と理想のギャップがあったなあという実感が湧いています。



オンライン点火祭のためのハンドベルクワイア・聖歌隊による賛美(初等部、女子短大、大学)